

## 第8章 河道特性

狩野川流域では、山地が流域の約9割を占め、山間部は急勾配で下り、田方平野へ出ると蛇行を繰り返しながら瀬淵や中州を形成し、緩やかに流れ河口へ至る。

上流部は天城山系に属し、浄連の滝や萬城の滝、滑沢溪谷等の溪流となっており、急勾配で流下する。

中流部は、田方平野を蛇行しながら流下し、瀬淵が連続する区間となっており、ところどころ大規模な中州や安定した高水敷が形成されている。河床勾配は約1/100～1/1,000程度で、標高10m前後の低地を緩やかに流れている。河床材料は礫径数10～100mm前後程度の礫が多く見られる。

下流部は、河床勾配は約1/1,800と緩やかになり、河床材料も砂が中心となる。河道は、蛇行を繰り返しながら流下し、柿田川合流点付近では富士山からの溶岩流からなる三島扇状地により河道が圧迫されて狭窄部となっている。黄瀬川合流点下流付近から感潮域となり駿河湾に注いでいる。

狩野川の縦断図を図8.1に示した。



狩野川上流部



狩野川中流部



狩野川下流部

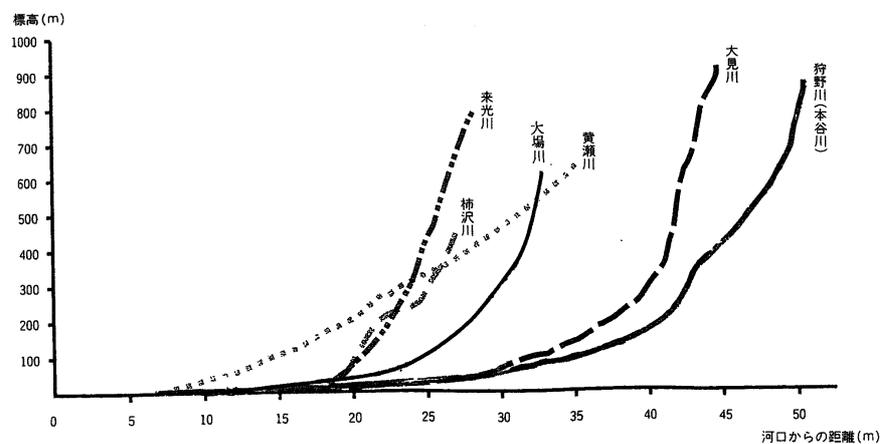


図8.1 狩野川河川縦断図